

目次

第誤中誤回 『へうげもの』と『10日くらいで死んだ爬虫類』～GからUへ～ 1

奥付

奥付 6

第誤中誤回 『へうげもの』と『10日くらいで死んだ爬虫類』 ～G から U へ～

すごい良いワケ。『へうげもの』が。

途中までしか読んでなかった全 25 巻を、最近やっと読破出来て。

堅苦しい「甲」の文化を命がけの創意で崩して、「乙」な「一笑」を目指すってところが特に。

今まで、戦国時代を描く作品の多くは、戦闘や歴史上の出来事、主人公の成り上がりなどをメインで描いていたのに対して、『へうげもの』は茶の湯という文化を軸に、信長から家康までの時代を斜めに描き斬ってる、まさに「甲」ではなく「乙」を目指した大作であり力作なワケ。

そこで読み終わってから、現代の文化、例えば絵画や音楽、文学や映画の甲と乙って何かとか、ある意味では甲も乙も含めて作品自体が飽和した現代において、それでも乙を目指すってどういうこととか、考えてたワケ。

こんなウマシカ素人の俺が恥ずかしい限りだけど、「硬く書けばいいのに、なんで崩すのか？」って言われたこともあった。でも今気づけば、それって俺が乙な一笑を目指しちゃウカラダだったからに他ならないし、このウマシカなんてそもそも乙しか目指してない。

たぶん分かりやすく言うと、甲はハレ、乙はケなんだよ。柳田國男よく知らんけど。

二枚目的な甲が好きか、三枚目的な乙が好きか、好みだと思うんだけど、俺はずっと日常のリアルにこだわった乙な作品が好きだから。そこんこ改めて気づかされた作品だった。

んで、それ読み終わって深夜、眠みと充実感で放心しながら、背景の歴史について知りたくてネット検索してた時に、見つけちゃった。あのすぐ死ぬ爬虫類。死にたてホカホカのヤツを。

なにこれって、最初の 5 日と終わりの 5 日くらい読んで終わった。ぱたんと本を閉じてズズと茶をすすって終了。だから俺の中では『10日くらいで死んだ爬虫類』になったんだけど。

思ったの、そんとき。時代物って、まさに死ぬのわかってて読むじゃん。古織なんてそもそも『へうげもの』読むまで全く知らない人物だったけど、死ぬのだけは分かってる、すると読んでる途中から怖くなるワケ、どう死ぬのか。イヤだな、せめて幸せな死

に方ならいいなって。

そこドキドキしながら、最終 25 巻まで一読者として、ものすごい熱量のカウントダウンで一気に燃え尽きたワケ。

その脱力の直後の、飛んで火に入る爬虫類感たるや。しかも数日前に『クロコダイル・ダンディ』の再放送もたまたま観てたから。女装した男性の股間挿んで笑いものにするって、今じゃおぞましいハラスメント映画だけど、俺もあの頃普通に笑ってたっけなとか。ヒロインを襲うワニをあっさりナイフで刺し殺したり。(これ書いた直後、コロナで亡くなっちゃったけど。合掌)

ちなみにその後すぐ、本当に世間でステマがどうだのワニの串刺しボヤ騒ぎが起こるだけだ。

でも俺には「一かけ」(一杯のかけそば)や「トイレ神」(トイレの神様)と同じ臭いしかなかった。

だったらせめて、己が感動した分くらいは作者に稼がせてやれよ、とは思う。どうせトイレ神層お得意の、二束三文のやっすい感動でしょ？ だったら作者に捨て投げ銭くらいしてあげなよ。そんな言葉はないし、どうせいつもの言いすぎですけども。

「一かけ」や「トイレ神」が稼げたのは、まだ時代が良かったのかもしないね。今だったらステマって袋叩きにされてたかも。そもそも、トイレ神層の祭りに踊らされて神輿に乗ったら、落ちてても文句言えないって話だよ。その程度のミーハー祭りだから。

ここまでが枕ね。

んで、コロナの件だけど、結局自分の身を守ることだけ、結論を逆算して考えるしかない。

なぜなら、この国の流されやすいトイレ神層には期待できないから。すぐ忘れるし。

実際、今年の 3 月 11 日前後に、原発と甲状腺関連の裁判があった件とか、そこでまだ不安を抱えてる子供たちを無視した責任のたらいまわしが行われてる件とか、誰も触れない。あれから 9 年後の今、コロナでも全く同じことが起こってる。

コロナでも何でも、己の常識という武器を手争う様はまさに「己こそが甲だ」って主張する、古代からある諍いと何ら変わらない。ただ、石器がスマホに変わっただけだ。

でも俺は己が常識を振りかざす甲を目指さない。そのかわり、己が懸命の創意で乙を目指したい。

だからコロナ目線で線引きしたら、俺も U も年齢的にもう若くない高リスク側だし、せめてある程度確かな薬とワクチンが出来るまで感染すべきではないと思う。

重症化したら死なずとも、程度によってはどこかの臓器に後遺症が残る可能性もあるしさ。

限界があるにせよ、他人の祭りで踊らないよう、出来る限りの予防策はしておくよ。

ただ、為政者が下々の痛みに興味のない嘘つきだと、こういうときしっぺ返しを食うよね。どこの国とは言いませんが。「またオオカミ権力者が大げさな嘘ついてる」「お前

が言っても信ぴょう性ないよ。だってお前らも宴会やってんじゃん」って思うだけだから。

それに、為政者らにここまで国語をコケにされても、この国の有名な作家たちはほぼ沈黙するだけっていう、それは言葉を扱ってる作家としてすごく残念なことじゃないかと俺は感じてる。

だからね、秀吉や家康だって、朝鮮出兵を慰労する「瓜売り」コントを本気で演じて、諸大名を笑わせたりしたらしいから、やったらいいよね、今の為政者も。

本気で国民を家の中にいさせたいなら、秀吉や家康を倣って国会生中継で「瓜畑遊び」演じて、全国民からマジの笑いを取りにいけばいい。そしたらみんなテレビ釘づけだよ。国会議員がここまでやるなら、俺らも家にいるかってなるよ。あと本気のぬるぬるローション相撲とかも国会でやってほしい。ウケるよ。

そういう真剣さがたりないよ為政者に。乙な真剣さがね。

あとゲームの話も少し書きたかったんだけど。

前に言ったPS4でもまだ一昔前のゲームしてて、それはPlaystation nowがお試して安かったからなんだけど。

『QUANTUM THEORY』って、敵に女をぶん投げるゲーム、「俺に女をぶん投げさせろ、早く！」って思うのに、なぜかなかなかぶん投げさせてくれなくてすごい焦らされんの。これM？ それともS？ っていうイライラした気持ち。

そういう「こんなの初めて♡」感が良かった。敵陣に投げた女を置き去りにしても平気だし、どうしてこんな物を作るに至ったのか考えさせられるゲームだった。まさに乙。

あと今更の『HEAVY RAIN』が、日常生活の動作について考えさせるとか。落ち着いたらまた書きたい。

あと「このご時世に」とかステマなんか、爬虫類の炎上みたいに哺乳類（ウマシカ）まで炎上したくないから控えめにするけど、『竜王子の天翔ける花』（戸田環紀さん著）を予約しました。今から楽しみです！ 気になったらお早めに！

今回はこんな感じ。

どうかな？



奥付

奥付

考えるウマシカ ～第五十五回『へうげもの』と『10日くらいで死んだ爬虫類』～

<https://puboo.jp/book/130374>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<https://puboo.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<https://puboo.jp/book/130374>

電子書籍プラットフォーム：パブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社

考えるウマシカ ～第誤中誤回 『へうげもの』と『10日く
らいで死んだ爬虫類』～

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
